

新年のご挨拶

(平成 27 年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交歓会より)

会長挨拶

一般社団法人 情報サービス産業協会
会長 浜口 友一

明けましておめでとうございます。経済産業省からは関大臣政務官を始め幹部の皆様方、そして遠藤政府 CIO、また関連団体の幹部の方々、マスコミの方々にもおいでいただいております。このように大勢の方々にいらっしゃっていただき大変ありがたいと思っています。



三点ほどお話をさせていただきたいと思います。一点目は足下の状況です。経済三団体の賀詞交歓会は大変盛会だったと聞いていますが、私どもの業界もその恩恵を受けていて、昨年から受注は好調に推移しています。今年の秋からは待望のマイナンバー制度も動き始めることになっていますし、その他いろいろなシステムの開発が続いています。「2015 年問題」と申し上げておりましたように人手不足が懸念されましたが、何とか乗り越えてきています。今後数年こういう状態が続くと思いますが、しっかりとしたシステムをお客様にお届けするというのが私ども業界の最大の責務であろうと考えています。

二点目はこれから先の状況です。JISA は昨年、設立 30 周年を迎えることができました。これを機にロゴを新しくしましたが、この中に地球マークが入っています。グローバル化を目指していこうではないか、という意思表示です。30 年たちまして、やはり一区切りかなという感じがしています。これから先々を考えますと、30 周年記念コンベンションで MIT の石井先生が、これからは破壊的変革が起きるとおっしゃっていました。中でも一番大きなものは IoT では

ないかと私は考えています。デジタルビジネス革命、あるいはインダストリー 4.0 という言い方もありますが、IoT は私ども産業にも大きな変革をもたらす力を秘めているのではないかと。また、逆に変化していかざるを得ないということかとも思います。今まで私どもの産業は、どちらかというとお客様からご依頼を受けて、受け身でそのシステムを作ってきたわけですが、IoT ということを考えると、これからはいろいろな産業の会社と協力して、新しいサービスやビジネスを私たち自身が生み出すというステージに入っていくのではないのでしょうか。そうしますと、今までとは違った能力が要求される時代になっていくだろうと思います。アベノミクスの第 3 の矢、成長戦略の中にベンチャー育成というのがありますが、新しいサービスやビジネスはベンチャー精神で開拓していかなくてはならないのではないかと。考えてみますと、私どもの業界は、最初はベンチャーから始めた会社がほとんどだろうと思います。もう一度改めてこのベンチャー精神を蘇らせて、そういう気概で新しいビジネスを開拓していくというのも大変楽しいのではないかと最近私は考えております。

三点目は働き方の問題です。SE は、欧米では良くベストジョブということで、大変人気のある満足度の高い仕事だと言われています。日本では労働時間の問題等があって、今のところいくつもの会社が改善に取り組んでいますけれども、そういう労働時間の改善の問題、女性活用を含めましたダイバシティに対する取組、ワークスタイルの変革にこれからトライしていかなくてはならないと思います。ワークスタイルイノベーションなくしては、これから魅力ある産業にはなかなかならないのではないのでしょうか。

今日は、いま申し上げたようなことに関して、忌憚なく意見を交換していただいて、新しい年に向かっていきたいと思っております。

来賓挨拶

経済産業大臣政務官

関 芳弘

新年明けましておめでとうございます。

過去 2 年間、アベノミクスの 3 本の矢ということで、経済政策によって有効求人倍率は 22 年ぶりに高水準が確保できたということがあったり、経常利益も過去最高水準を出していただいたりと、雇用や企業収益に関して経済の好循環が生まれ始めているところです。この好循環をより力強く回していきまして、景気回復の実感を全国津々浦々まで届けていきたいと考えているところです。



昨年末には 3.5 兆円の経済対策と与党の税制改正大綱の取りまとめが行われました。経済政策につきましては、経済産業省として中小企業の資金繰り対策やものづくり・サービス補助金など、しっかりと盛り込んできたところです。また、法人実効税率につきましては、来年度から 2.51%の引き下げがされるということになっております。

これまで、政府挙げて民間企業の皆様には賃上げをお願いしてきたところですが、経済の好循環を力強く回していくために、賃上げの流れをぜひ加速していただければと考えています。また、地方の中小企業にも行き渡らせていくことが重要だと考えていますので、その点につきましても是非よろしくお願ひします。取引企業の仕入価格の上昇を踏まえた価格転嫁や支援・協力につきましても、総合的に取り組んでいただくようお願いしたいと思ひます。

皆様の産業は売上高が 20 兆円で、従業員数も 90 万人という主要産業です。しかし、我が国の IT 投資につきましては、システム運用など守りの IT 投資が大半を占めていて、ビジネスモデルを革新する攻めの IT 投資は 2 割程度に留まっていると伺っております。今後は攻めの IT 投資をどんどん強めていただけた

らと思います。経済産業省としましても、攻めのIT投資を増やしていただくために、東京証券取引所と共同で優れたIT経営を行っている上場会社を選定・公表する「攻めのIT経営銘柄」や、中小企業を対象とする「『攻めのIT経営』中小企業百選」を創設したところです。本年はJISAにもご協力いただきまして、これらの取組を着実に推進していきたいと考えています。

今年は戦後70年という節目の年でございます。戦後、先人の方々が額に汗して働いて、今日の日本経済を築き上げました。その日本経済をより一層力強く発展させて、国民が暮らしの豊かさを実感できるような年となることを、そしてJISAにとっても飛躍の年となることを心から祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

乾杯挨拶

独立行政法人 情報処理推進機構

理事長 藤江 一正

明けましておめでとうございます。今日はお招きいただきましてありがとうございます。

JISA は昨年でちょうど設立 30 年ということで、11 月に記念コンベンションがあったと記憶しています。そこで浜口会長がおっしゃったのは、やはり若い 20 代、あるいは 30 代、40 代の人にがんばっていただかなくてはならないということで、30 周年記念イベントやロゴの企画も全て JISA の各企業の若手の方がお考えになったということです。今年はその 31 年目、つまり、これからの 10 年のスタートの一年目というふうに理解しています。JISA は非常に良くまとまっておられて、先ほど浜口会長も元々ベンチャーの集まったようなところだとおっしゃっていましたが、そういう意識が非常にあるところで、私ども IPA もご支援をさせていただいていますし、同時に逆にわれわれ自身にご教示をいただいていると思っています。

昨年、サイバーセキュリティについて国会で法律を決めていただいたというのが一つの大きなエポックであったと私どもは認識しております。IPA では、去年 J-CRAT (サイバーレスキュー隊) という、サイバー攻撃を受けた時の支援をさせていただく部隊を作るなど、いろいろと今がんばっているところです。

IPA は使い勝手がいい独立行政法人でなくてはならないと思っています。そういう意味で、我々自身は是非皆さんからどんどんご注文やご要望をいただきたいと思っていますし、我々自身も双方向でお互いに事業を進めさせていただけたらと思っています。どうぞまたこの一年よろしくお願ひ申し上げます。

